

I 乾乳牛編 ～ここでの管理が次乳期の乾物摂取量を左右する重要な期間!!～

乾乳期は、母子ともに健康な状態で分娩を迎えるための大切な準備期間です。

分娩前後は免疫力が低下しやすい時期でもあり、この時期の乾物摂取量低下は、周産期疾病発症の原因となります。乾乳牛は、胎児の急激な成長により第一胃が圧迫され、生理的に乾物摂取量が落ちやすくなりますが、環境ストレスにより、さらに乾物摂取量を落とすことがないように、1つ1つのストレスをできるだけ小さくする必要があります。

①自由に動ける、広さに余裕のある飼養場所の確保

できるだけ自由に動ける飼養形態をとりましょう。その場合、行き止まりの無いレイアウトとし、広さを確保することで競合によるストレスを避けましょう(表1)。

また、やむを得ず係留する場合は、以下の点に注意しましょう(表2)。

形態	スペースの考え方・目安
フリーバーン	休息スペースとしての広さ
前期	10～12 m ² /頭
後期(分娩前3週間)	12～14 m ² /頭
フリーストール	ベッドの数と1頭あたりの飼槽幅を比べて、より少ない(せまい)方で考える
前期	收容頭数以上にしない(飼槽幅:60cm/頭以上)
後期(分娩前3週間)	收容頭数の8割以下(飼槽幅:75cm/頭以上)

表2 係留の場合の注意点

- ニューヨークタイストール等、自由度の高い係留方法を選択
- 尿溝にスノコを設置して牛床の長さを確保
- 搾乳牛の餌を食べないように、盗食防止の工夫が必要(写真1)
- 初妊牛と経産牛(強い牛)の競合に注意した並べ方
- 他の牛舎から移動する場合は、遅くとも2週間前まで



写真1 ニューヨークタイストールに自作の盗食防止板を設置

②寝起きが楽にできる、安心して歩ける環境

- ・牛床マットを利用し、滑らず、やわらかい寝床を用意しましょう(JA等の助成も有効利用!)(写真2)。
- ・乾いた敷料を、たっぷり入れましょう
- ・特に冬期間は、乾乳牛といえどもお腹を冷やさないことが大切です。
- ・土を踏ませることで蹄の休息になりますが、その際は、十分な面積の確保、排水、適度な掃除により、凸凹やぬかるみを防止することが必須です。



写真2 牛床マットと敷料を敷いた乾乳牛舎(分娩房)